

尾張自然観察会通信

2024年5号

発行5月1日



マツバラン (マツバラン科)

種名にランとついていますが、蘭の仲間ではなくシダ植物です。Wikiでは「茎だけで葉も根ももたない。」と紹介されていますが、牧野新日本植物図鑑では、「葉はごく小さい鱗片状でまばらに茎の稜線に着いて互生する。」とあります。地下茎からは根ではなく、毛のような反根が生えています。

国のレッドリストで準絶滅危惧に指定されていますが、市街地にも出現することもあります。栽培されることもあり、そこから孢子が飛んで発芽しているのかもしれませんが。

=====目次=====

当面の行事案内	1
会員のみなさんへのおしらせ	2
定例観察会報告	3
善師野自然観察会 (3月)	3
尾張北部自然観察会 (4月)	4
森林公園自然観察会 (4月)	5
木曽川下流自然観察会 (4月)	6
海上の森自然観察会 (4月)	7
日進岩藤川自然観察会 (4月)	8
知っておきたい尾張の自然・風景	
大草のマメナシ自生地	9

当面の行事案内

■定例観察会

日付	場所	催行時間	集合場所	担当	連絡先
5/4 (土)	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
5/4 (土)	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304
5/5 (日)	森林公園 <small>あいちの自然観察会</small>	9:30~12:00	森林公園案内所	出口	080-4309-2701
5/12 (日)	木曽川下流	9:30~12:00	138タワー玄関前	齋竹	0587-37-7616
5/18 (土)	海上の森	10:00~15:00	海上の森駐車場	内海	090-9912-3686
5/19 (日)	日進岩藤川	9:30~12:30	日進市総合運動公園の駐車場	鬼頭	0561-38-2792
5/25 (土)	善師野	9:30~15:00	善師野駅前 (農道駐車不可)	平井	052-504-5223
6/1 (土)	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
6/1 (土)	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304
6/2 (日)	森林公園	9:30~12:00	森林公園案内所	出口	080-4309-2701

通信に掲載したい事項やメールアドレス変更などがありましたら、下記担当者までお知らせください。

<編集担当> 齋竹善行

住所: 〒482-0007 岩倉市大山寺元町 12-3 メールアドレス: BZA03620@nifty.ne.jp

会員みなさんへのおしらせ

■新しい役員体制=会長代行（副会長）

尾張自然観察会の会長だった松尾初さんが退会されたことに伴い、今年度は副会長の平井直人さんが会長代行として会を代表することになりました。よろしくお願いいたします。

■森林公園のイノシシ問題解決＝「あいちの自然観察会」は予定どおり開催

去る4月28日に愛知県森林公園においてイノシシが来園者を襲ったことから、29日から公園が閉鎖されていて、5月5日に予定していた「あいちの自然観察会」と森林公園定例観察会の開催が危ぶまれていましたが、5月2日から植物園の区域を含め公園全体が使用できるようになります。したがって、5月5日（日）の「あいちの自然観察会」と森林公園定例観察会は予定どおり開催します。お誘いあわせてご参加ください。

■運営委員会報告

日時：2024年4月29日（月・祝）14:00～16:00 場所：岩倉市生涯学習センター

○今年度は副会長が会長代行として会を代表することとし、関係団体には代表者が交代した旨を連絡することとしました。

○前会長が保管していた尾張自然観察会の財産は事務局が受け取ることにしました。

○総会で決定した会員がいずれかの定例観察会に所属するという件については、現在定例観察会に参加している会員に希望を聞いて集約し、定例観察会に参加していない会員に対してはメールあるいは電話で所属を希望する定例観察会を確認することとしました。（5月・6月に定例観察会に参加される会員のみなさんは、所属を希望する定例観察会を担当者にお知らせください。）

○総会で検討することとなっていた新しい傷害保険については検討して今年度内に結論を出すことにしました。

○今年度、協議会会費を納入せず退会する会員の尾張自然観察会への残留についてどのように意思確認をするかが話題になりました。（これまでは尾張自然観察会の会費を納入することで意思表示があったものとしていました。）

協議会費の納入状況をみて対応することとしました。

○定光寺と築水池の定例観察会がなくなったことから、あらたな活動について次のとおり検討していくこととしました。

- ・犬山市里山学センターと協力して、その周辺での取り組みを検討する。
- ・春日井市、瀬戸市（定光寺付近）、小牧市あたりで新たな観察会を立ち上げる。

○5月5日に予定している「あいちの自然観察会」は4月30日時点で森林公園の一時閉鎖が解除の見通しが立たなければ中止することとしました。→5月から開園されることが決まり予定どおり実施

（記録：齋竹）

定例観察会報告

第337回 From 善師野 2024. 3. 23 (土) 雨 指導員3名 一般2名

3月は恒例の本宮山のカタクリと尾張富士のシデコブシを見に行くはずでしたが、本降りの大雨。ここは無理せず善師野の里山を歩きました。善師野駅にはトビモンオオエダシヤクが天井に張り付いていました。わざわざ降りてきてもらって、じっくり観察させてもらいました。さあ、雨の中でしたが、田んぼの畦ではノジスマレが花を咲かせ、群生地になっていました。晴れていればスマレの甘い香りが広がっていたはずでした。シヨウジョウバカマや春の香りの代表ヒサカキも雨の中でしたが花を咲かせていました。大洞池を過ぎて雑木林の道を歩いていると、道沿いのアベマキの株本に泡が溜まっていた。よく見ると幹の途中から泡が出て、その泡が幹を伝って株本に集まっているようでした。なぜ泡が生まれて株本に溜まるのか、この泡は何なのか。答えは、幹から出る成分や環境物質などが雨と反応してできた泡が樹幹流で流れ、株本に溜まる現象のようでした。すべての木で泡ができる訳ではないようです。泡ができるには条件が必要ということです。

雨の日の昼食場所、ナガバノタチツボスマレが咲く熊野神社の108段の階段を上った境内で遅い昼食をとり、早めの解散としました。(平井)



尾張北部自然観察会

2024年4月6日(土) 晴れ

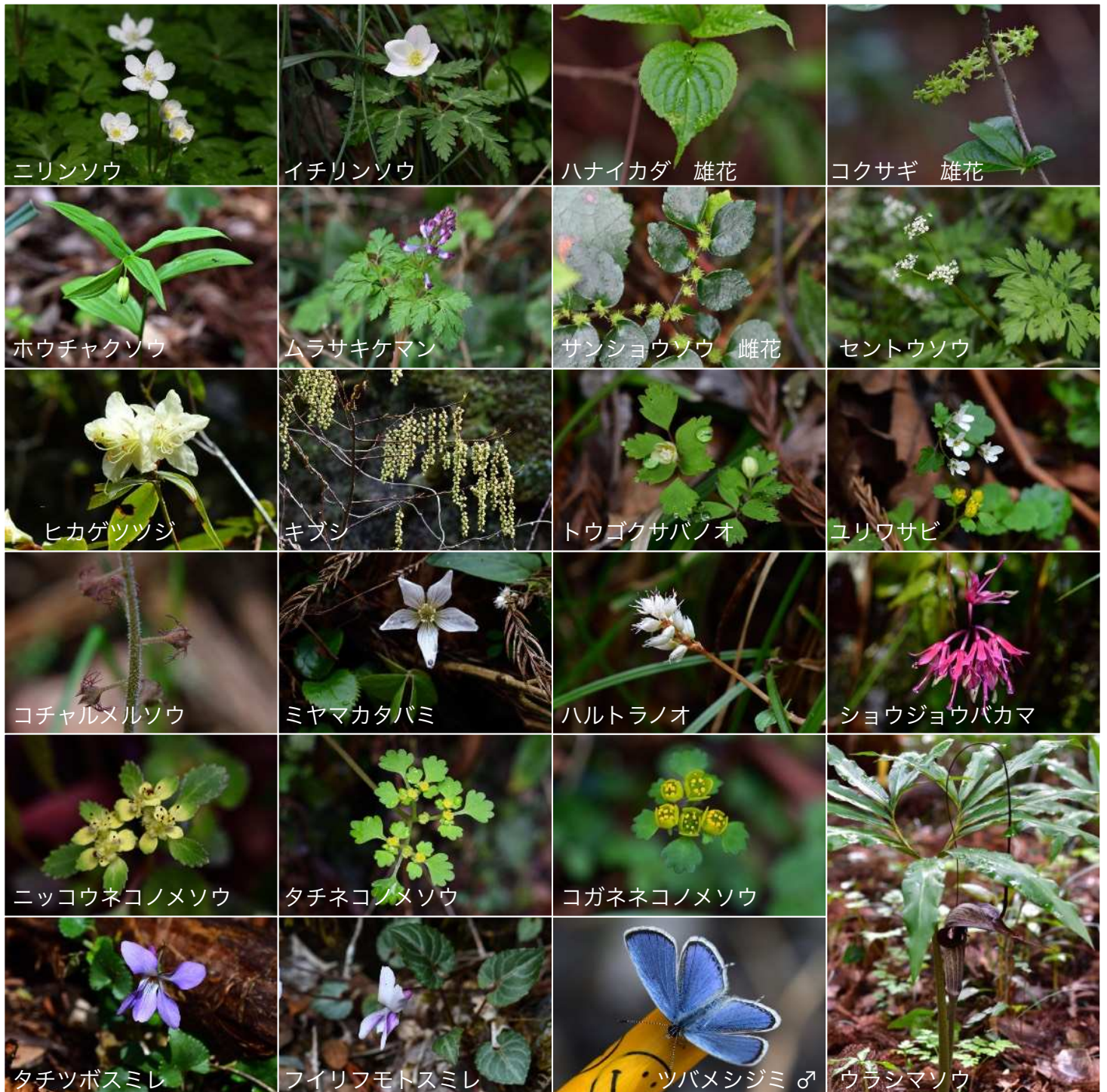
指導員(木村、太田、岡田、霜、角田、山田、後藤、後藤) 8名、 一般12名 計20名

大脇の可児川左岸に沿って蕾や花を付けたハナイカダ、コクサギ、アオキ等の雌雄を調べながら歩きました。奥のニリンソウ群生地は見頃で、その中に混じって咲くイチリンソウとの花や葉の違いも観察しました。

次に七宗本谷に移動すると出発時に大きな数匹のヒルが出迎えてくれました。バイカオウレンは予想通りすでに種子になっていて、溪流の日陰に残花が数輪見られただけでした。フサザクラの花にも間に合いませんでしたが、ヒカゲツツジ、ミツバツツジ、オオカメノキ、タムシバ、キブシ等の樹木の花、トウゴクサバノオ、ユリワサビ、ミヤマカタバミ、ハルトラノオ、ショウジョウバカマ、数種類のネコノメソウ等の草花を愛で、春の溪流沿いの散策を楽しむことができました。(後藤)

[その他観察したもの]

大脇: ヤマネコノメソウ、カタクリ、ショウジョウバカマ、シキミ、ヌリトラノオ、ヒトツバ、シシラン 等
七宗: スミレ、コミヤマカタバミ、ヒメカンスゲ、セッコク、アカシデ、モミジイチゴ、ヤマグルマ 等



森林公園観察会 レポート No363

日時:2024年4月7日(日)09:30~12:00

天候:晴れ 気温:最低 12.0℃、最高 25.0℃

参加者:指導員9名(出口、高橋(征)、高橋(か)、小林、松原、木村(絢)、岡島、櫻井、太田) 一般6名、計15名

風もなく穏やか、満開のサクラの下での観察会となった。今回の目玉はマメナシ、春の東海丘陵要素を代表する植物だ。森林公園総合案内所前を出発、児童公園を経て植物園東門を入り展示館前を通過して西の端に位置する目的地までの間、様々な動植物を観察しながら歩く。児童公園では開き始めたモミジバフウの花序を観察、びっしり並んだたくさんのオバナと一つだけちよこんと付いたメバナが対照的、この先どんなふうに変わっていくのか楽しみだ。園内ではヤマザクラ、オオシマザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノと様々なサクラが同時に楽しめる。見上げればクマバチが飛び交い、足元にはフモトスミレ、ニオイタチツボスミレなどたくさんのスミレ、明るい湿地ではハルリンドウ、ショウジョウバカマの群生、シデコブシなどが見られた。さて目的のマメナシは今が満開、純白の花弁に深紅色の葯をつけた雄蕊が実に美しい。この他、ミチタネツケバナがタネを飛ばした後のまるまった鞘、道端にひっそり顔を出したアミガサタケなどめずらしいものも観察でき春を存分に満喫した一日だった。

(小林龍彦)

木の花:ヤマザクラ、オオシマザクラ、エドヒガン、イトザクラ、ソメイヨシノ、マメナシ、ヤマナシ、ハナカイドウ、コバノミツバツツジ、ヒカゲツツジ、アセビ、ハナノキ、シデコブシ、コブシ、ミヤマシキミ、ミヤマガマズミ、シナレンギョウ、ウスノキ、ヒサカキ、チンチョウゲ、ボケ、モミジバフウ、イロハモミジ

草の花:ハコベ、コハコベ、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ、ミチタネツケバナ、ムラサキサギゴケ、フモトスミレ、タチツボスミレ、ニオイタチツボスミレ、マキノスミレ、スミレ、ジロボウエンゴサク、ムラサキケマン、シロバナイカリソウ、サクラソウ、ウラシマソウ、ニホンタンポポ、シュンラン、ハルリンドウ、ショウジョウバカマ、セントウソウ、キランソウ

その他:ゼンマイ、ワラビ、タラノメ、アミガサタケ

昆虫:キタキチョウ、ベニシジミ、クマバチ、ビロードツリアブ、フタホシテントウ

鳥:ウグイス(さえずり)、メジロ、ハシボソガラス





木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2024年4月14日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:6名

指導員:太田、永田、安田、齋竹

テーマ 紫・青系統の花を観よう

開花が遅かった今年のソメイヨシノもおおかた散ってしまいました。桜の頃は淡いピンク色がよく目につきましたが、春といえばタンポポや菜の花など黄色も多く見られます。今回、それら程は目立たないかもしれませんが、紫から青の系統の花に注目して回りました。

春先に紫の花といえば、まずはスミレ類でしょう。園内の桜などの根元や堤防道路の脇にヒメスミレが、大野極楽寺公園北側の堤防法面にはスミレが多く見られます。「ヒメ」とつく小さいというイメージがあり、実際、スミレより花が小さいものが多いのですが、中には同じくらいのサイズのものもあります。見分け方は、スミレは葉柄に翼が目立ちますが、ヒメスミレはほとんどないこと、またヒメスミレの葉の裏は紫色を帯びているものが多いことです。スミレ類はツマグロヒョウモンの幼虫の食草なので、生えている辺りで羽化したばかりと思われる成虫が飛んでいました。

堤防法面ではマツバウンランとオオマツバウンランが咲いていました。どちらも紫・青系統の花ですが、見比べると花の大きさのほか、マツバウンランは紫色に近く、花弁の白い模様がはっきりわかるのに対し、オオマツバウンランは青味が強く、白い模様ははっきりしません。(ただ、個体差があり紛らわしいものにも出会います。)

その他、紫・青系統の花はカラスノエンドウ、カスマグサ、ホトケノザ、キランソウ、カキドオシ、ムラサキケマンなどが観察できました。また、昨年見たムサシアブミも同じ場所で黒紫色の花をつけていました。

鳥はキビタキの姿が見えたほか、センダイムシクイ、サンショウクイといった夏鳥の囀りが流れていました。

途中で毎日この公園を歩いているという人からオオタカが営巣していると教えてもらいました。先月、鳴声が聞かれた竹藪の中の木の上に巣がありましたが、竹の陰に隠れて分かりにくい場所です。一昨年は1km程西側のモクパラの林の中で営巣し、無事に巣立ちしましたが、今年も元気な姿が見たいものです。(報告:齋竹)



(樹などの根元でヒメスミレを観察)

<その他観察できたもの>

花:(紫・青系)セイヨウジュウニヒトエ、ヒメオドリコソウ、アケビ、ベコバナトキワマンサク、キュウリグサ、オオイヌフグリ、ネモフィラ (赤・ピンク)フゲンソウ、シダレザクラの仲間、ヤブツバキ、ヒメウス、(黄)シナレンギョウ、ニホンタンポポ、セイヨウタンポポ、ヤブタバコ、ヒメフタナ、コメツブツメクサ、ヘビイチゴ、カタバミ、(白)アメリカザイフリボク、ユキヤナギ、ノミノツツリ、コハコベ、オランダミミナグサ、スズメノエンドウ、シロツメクサ、ナガバオモダカ、ハルジオン、シロバナタンポポ、クサイチゴ 蕾:アキグミ

鳥:トビ、キジバト、ツグミ、シメ、ツバメ、ヒヨドリ、ハクセキレイ、メジロ、シジュウカラ、カワラヒワ、ムクドリ、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ウグイス(声)、キジ(声)

虫:モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ナミアゲハ、ベニシジミ、ツバメシジミ、キタテハ、クロコノマチョウ、ナミテントウ、マダラガガンボsp



スミレに似ているヒメスミレ



花が小さいマツバウンラン



増えてきたオオマツバウンラン



誰か植えたカムサシアブミ

海上の森自然観察会

一般：4名、指導員：6名

2024. 4. 20

内海

		
ヤママユ ヤママユ科	ツチイナゴ バッタ科	コミミズク ヨコバイ科
		
アサヒナカワトンボ カワトンボ科	オオアカマルノミハムシ ハムシ科	ツマキエダシャク シャクガ科
		
ホソミオツネトンボ アオイトトンボ科	ヨツボシハムシ ハムシ科	ヒゲナガハナノミ ナガハナノミ科
		
モモトカミキリモドキ カミキリモドキ科	スカシヒロバカゲロウ ヒロバカゲロウ科	ウスキオエダシャク シャクガ科

今回は昆虫ばかりの海上の森になりました。



ヒラドツツジが咲き始めています。昨年より一週間くらい早いようです。昨日捕まえたオニヤンマの終齢幼虫を



見せてもらいました。上はほぼ実寸大で 50 ㍉弱。ここま
で数年間の水中生活を送り来月には羽化するでしょう。



シオヤトンボ雄

先回見たのは黄色い色をしたものばかりでしたが、あれから 2 週間たって成熟し、腹部が青白い粉を吹いたように見えます。岸辺で雌が現れるのを待っているようです。春早くに出現し、夏には姿を消してしまいます。



ヒロドツリアブ

得意のホバリングで下を向くドウダンツツジの周りを飛んでいました。お目当ての花に止まって長くちばしをさし込んで蜜を吸っています。日差しにぬくもりを感じる頃に現れて春を感じさせてくれる昆虫です。



ウスチャコガネ雄

4 月～ 5 月頃、低い草地の上を何匹かで飛び回る姿が見られます。前翅は薄茶色のものが多いのですがその中に真っ黒の個体が混じっていました。



ヤマツツジの仲間

雑木林の縁で 4 月～ 5 月頃に見かけるようになります。花には蜜標と呼ばれる昆虫を誘うように濃い模様が見えます。この仲間の雄しべは 5 本です。



ヒキガエルのおたまじゃくし

2 月末に生まれた卵は、後ろ足の出たおたまじゃくしになって、縦 30cm くらいのくぼみに集まっています。このおたまじゃくしの里親を募集して部屋の中で育ててもらっていたのは右下のようなカエルのこども(体長 10 ㍉)になっています。水温が高いと成長が早まるのがよく分かります。



クロツヤクシコメツキ

体長 20 ㍉。全身に褐色の短毛が見られます。ひっくり返して平らなところに置くとプチッと跳ねます。この仲間は似たものが多いのですが触角の第 2 節が短いのが決め手です。

(鬼頭)



マメナシの花（桜の花期とほぼ同時）

マメナシ（別名イヌナシ）は、バラ科の落葉高木で、日本では東海地方だけに自生が見られる東海丘陵要素の植物です。生育している個体数は500本程度と言われ、国のレッドリストでは絶滅危惧ⅠB類に指定され、同じく東海丘陵要素のヒトツバタゴ（絶滅危惧Ⅱ類）、ハナノキ（絶滅危惧Ⅱ類）、シデコブシ（準絶滅危惧）より、絶滅のおそれが高いランクに当たります。

三重県の桑名市（多度）と四日市市（東阿倉川）の自生地は国の天然記念物に指定されて有名ですが、愛知県でも名古屋市

守山区（八竜湿地、小幡緑地など）をはじめ尾張地域に何カ所か自生地があります。

その中で、小牧市大草のマメナシ自生地は県内で最大規模の30本程が確認され、実生からの生育も認められる貴重な場所です。ここは元尾張自然観察会会員だった日比野修さんが1999年に生育していることを発見し、小牧市が2008年3月に市の天然記念物に指定して保護し、2011年8月には県が「大草のマメナシ自生地」として天然記念物に指定しました。指定区域面積は約4800㎡で、マメナシのほか東海丘陵要素のクロミノニシゴリも生育しています。

自生地は小牧市の南東部に位置し、東側に「東部工業団地」が隣接し、西側はため池「太良上池」に続き、近くには愛知文教大学や名古屋造形大学があります。

小牧市はこの自生地の「保存活用計画」を策定するとともに、周辺一帯の自然環境の保全活用を図るため、「太良まめなしの里」の整備を進めています。（齋竹）



（花の時期の自生地）



（マメナシ自生地の説明看板）



（マメナシ自生地周辺地図）



（整備されている「太良まめなしの里」）